

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果から

我孫子市立高野山小学校

教 務 部

## 国語A問題（主として知識）

○観点別にみると、「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は平均よりも高い。

○その反面「伝統的な言語文化・国語の特質」が平均よりも低い。

○選択式、短答式の問題形式で比較すると短答式が平均より高く、選択式が平均より低い。

### 特に正答率の低かった問題

- ・文の中で漢字を使う（せい造）
- ・文の中で漢字を使う（せつ備）

## 国語B問題（主として活用）

○観点別にみると、「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のすべてで平均よりも高い。

○その反面「知識」「伝統的な言語文化・国語の特質」が平均よりも低い。

○選択式、記述式の問題形式で比較すると選択式が平均より高く、記述式が平均より低い。

◎観点別に見てもどの観点でも県平均を上回る結果であった。

### 特に正答率の低かった問題

- ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く

## 算数A問題（主として知識）

○観点別では、「図形」領域が低い。

「数と計算」「量と測定」の領域では県平均を上回った。

### (特に正解率の低かった問題)

- ・分度器の目盛りを読み、 $180^\circ$  よりも大きい角の大きさを求める
- ・円周率を求める式として正しいものを選ぶ

## 算数B問題（主として活用）

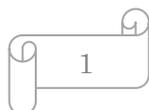
○観点別に見ると「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」すべての項目で県・全国平均を上回った。

### (特に正解率の低かった問題)

なし

## 算数に関して、児童質問用紙の回答から(県平均±4ポイント以上のものについて)

○算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか 本校 69.1% 県 64.3%



## 理科

○観点別に見ると「科学的な思考」が県・全国平均を上回り、「知識・理解」は平均と同程度、「技能」が県・全国平均を下回った。

(特に正解率の低かった問題)

- ・人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ 本校 48.7% 県 58.3%

理科に関して、児童質問用紙の回答から(県平均±4ポイント以上のものについて)

- 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか 本校 72.6% 県 65.9%
- ▼理科の授業では理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか 本校 71.7% 県 87.2%
- 観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか 本校 85.8% 県 81.5%
- ▼観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか 本校 62.9% 県 68%
- 5年生の時理科の授業を受けた後に習ったことに関わることでもっと知りたいことができましたか 本校 79.7% 県 75.7%

児童質問紙から(平均よりも±4ポイント以上のもの)

- ▼将来の夢や目標を持っていますか 本校 80.5% 県 85.2%
- ▼人の役に立つ人間になりたいと思いますか 本校 90.3% 県 94.8%

→過去3年間から見て、自己肯定感の低い児童が多い。前向きに活動できることで学力向上につながると考えられる。

- ▼毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか 本校 64.6% 県 76.5%
- ▼家で、学校の授業の予習・復習をしていますか 本校 55.8% 県 60.5%
- ▼家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか 本校 61.0% 県 65.1%
- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) 本校 37.1% 県 29.3%

→生活習慣をうまく作ることができていない児童が多い。家庭学習の習慣ができていない児童はテストでも結果が出ていない。

- ▼今住んでいる地域の行事に参加していますか 本校 50.4% 県 54.8%
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか 本校 62.8% 県 50.1%

→地域とのつながりは少ないが、地域に貢献したい、何かできることはないか、と考えている児童は多い。

## 児童質問紙のクロス集計の結果から

学習（学校・家庭・学習塾等）に関する事項，家庭生活や生活習慣に関する事項など合計85項目の質問に対する結果とテストの得点の相関を調べ考察した。

当然の結果ではあるが，学習に対する意欲の高い児童ほど得点が高いことがわかった。特に，「学校の宿題をしている」の項目では「している」と答えた児童と「あまりしていない」と答えた児童の間に大きな差が見られた。毎日宿題に取り組む習慣作りが学力向上に大きく関わることがわかった。また，平日の家庭（習い事を含む）での学習時間が30分を切る児童については，正答率が低くなる傾向が見られた。

また，生活習慣に関する調査項目の「住んでいる地域の行事に参加している」「地域のできごとや問題に興味がある」「地域や社会をよくするためになにをすべきか考えることがある」「地域のボランティア活動に参加したことがある」など，地域や社会に興味があるかの項目でも関心の高い児童ほどテストの得点が良いという相関が見られた。

集計結果から，学校や家庭で自己肯定感を持って前向きに過ごすこと，毎日宿題に取り組む生活習慣を作ること，自分の身の回りの環境や社会に興味を持つことが学力を上げるために効果的であると言える。

## 考察（国語・算数・理科の結果と児童質問用紙の回答結果から）

児童質問用紙の結果から，算数・理科ともに教科の学習に対する関心・意欲はあることがわかる。しかし，規範意識，自尊感情，生活習慣，学習習慣については身に付いてきていないことがわかった。学習得点を観点別に見ると，国語の「記述式」「短答式」領域についての得点が低い傾向にある。授業の中で，少人数グループでの話し合い活動はできるが，話し合いの内容を文章にまとめたり，みんなの前で発表したりすることに苦手意識を感じている。

どの教科でも，学んだことを実生活や他の学習に活かさないか考えている児童ほど良い結果がでていたので，授業のあり方や学び方について考えていく必要がある。

家庭学習に関する項目でも，全国平均よりも数値が低い。宿題等決められた学習に毎日取り組む習慣をつくるとともに，計画を立てて自主学習をする力を育てていきたい。

### ○授業改善について

#### ・「書く」活動の充実

黒板の板書だけにしない。思考を伴う「書く」活動を意図的に設定する。

#### ・アクティブラーニングの推進

「何を学ぶか」から「学んだことをどのように活かすか」という「活用」の視点を持ち授業作りをする。受け身の学習にとどまらず，授業のある45分間主体的に学ぶ児童の育成。